

I-G403-5 正常妊婦および耐糖能異常妊婦における血管超音波所見

鈴鹿医療科学大学臨床工学科<sup>1</sup>、三重大学産科婦人科学講座<sup>2</sup>  
吉田 純<sup>1</sup>、杉山 隆<sup>2</sup>、前川 有香<sup>1</sup>、日下 秀人<sup>2</sup>、  
豊田 長康<sup>2</sup>

【目的】耐糖能異常妊婦における血管内皮機能および血管壁形態変化を知ることが目的として、超音波断層法による所見を正常妊婦と比較検討した。【方法】正常妊婦（NP）群31名、1型糖尿病合併妊婦（DM1）群10名、2型糖尿病合併妊婦（DM2）群8名、妊娠糖尿病妊婦（GDM）群8名を対象とし、右上腕動脈の血流依存性拡張（FMD）、総頸動脈における内臓中膜厚（IMT）および血管弾性特性（EP）を計測した。なお、総頸動脈ではIMT、EPとも両側計測して左右のうち大きい方の値をその症例の値とした。【成績】DM1群、DM2群、GDM群はいずれもNP群と比較して上腕動脈FMDが有意に低値であった。また、DM1群の総頸動脈IMTおよびEPはいずれもNP群と比較して有意に高値であった。【結論】血管内皮機能を反映するFMDはGDMを含め短期間の罹病にても低下するが、IMTおよびEPの変化には比較的長期の罹病が関与すると考えられた。